



個室ユニット 推進協ニュース

Number 108

- 1面 初の認知症介護実践研修を開催
ウの目タカが目こちら傍聴席
- 2面 28年度介護経営実態調査に向けて
第3回ユニットケア施設管理者研修
第5期ユニットリーダー研修
支部便り【静岡支部・岐阜支部】
【連載】認知症あれこれ(第2回)
- 3面 施設紹介【天寿荘】佐賀県
取組紹介【アットホーム諸岡】福岡県
取組紹介【竹の塚翔裕園】東京都
取組紹介【岐南仙寿うれし野】岐阜県
- 4面 介護ニュース・ダイジェスト
ズバリ回答! 人事・労務のお悩み
用語解説【ICFって?】

【発行】一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会 〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町171-1 TEL:045-921-0462 / FAX:045-921-0472

初の認知症介護実践研修を開催 根拠に基づく理解が質の向上へ 地域との日常的な繋がりを

全国個室ユニット型施設推進協議会(推進協・赤枝雄一会長)は、1月19日、26日、27日の5日間にわたり、横浜市内で推進協としては初となる「認知症介護実践研修」(横浜市指定)を開催、21名が受講した。研修は増え続ける認知症高齢者に対し、より良い介護サービスを提供するために開かれた。推進協は今後も認知症介護実践研修を開催し、認知症ケアへの組織的な取り組みを強化する方針。講義の要点をまとめた。



1日目のグループワーク
講師の指導を受けて結果を報告する受講者

1日目(1月19日)

認知症の介護の理念について
柳下幸子氏(ゆあーずサポート)



『本人・家族の立場に立ったケアを』と語る柳下氏
センター代表取締役

要点…理念に基づいたケアとは何か? 視点を考えるだけで違ってくる。その視点を有効に活かし、自分達の理念をきちんと理解することが大事。できることもあれば、できないこともある。その人の立場にたつて色々な情報を共有し実践し、ケアプランへとつなげる仕組みが大事である。

2日目(1月20日)

生活の質の保障とリスクマネジメントについて
高田朱美氏(グループホーム水車の里ホーム長)



『リスクを共有し、実践することが大切』と述べる高田氏

要点…認知症の人のリスクマネジメントを考える際には、認知症の中核症状が日常生活や社会生活に支障をきたすことへの理解が大前提となる。その上で「リスク対策をすることが大事である。リスクを回避する」生活行為を制御する」ということではない。メンバー個々の安全意识を高め、チームで情報を共有し実践していく取り組みこそが認知症の人のリスクマネジメントである。

認知症の医学的理解
小島進氏(赤枝病院 副院長)



『根拠に基づく理解が必要』と指摘する小島氏

要点…認知症というのは状態名であり脳の病気である。認知症の症状や背景にある疾患を知り、根拠に基づいた理解をすることがBPSDの効果的な対策につながる。アルツハイマーの危険因子は脳卒中の危険因子とほぼ同一である。脳卒中の危険因子である喫煙や肥満に留意し、糖尿病、高血圧、高脂血症にならないように予防することが大切である。

認知症の心理的理解、生活の捉え方
帆苺薫氏(横浜市鴨志田地域ケアプラザ所長)

要点…認知症者の言動は、病気による影響だけでなく、その人の本来持っている



『本人の心の動きを知る』と語る帆苺氏

る危機管理能力や処世術などをフル回転させ、今の状況に対応しようとするために引き起こされている。介護者は、認知症者が中核症状があるために、自身の今の状況を他者に思うように伝えられない困難さを理解し、認知症者本人の心の動きを知ることが、心理的理解の第一歩となる。

意思決定支援と権利擁護
村田茂氏(グループホーム麻生管理者)



『権利擁護の情報発信が必要』と指摘する村田氏

要点…認知症高齢者の人数が約462万人(厚労省推計)であるのに対し、成年後見制度の利用者は約17万人、約3.7%と利用率が低い。このような現状において、私たち介護職ができることは権利擁護システムについての理解を深め、必要とする方々に対して情報を発信していくことである。

3日目(1月21日)

コミュニケーションの本質と基本を理解する
秋津克巳氏(しょうじゅの里鶴見施設長)



『援助者としてのあり方の見直し』と述べる秋津氏

要点…コミュニケーションは認知症の中核症状とそれに伴う行動・心理症状の予防や解決にも役立つ。認知症の人のコミュニケーションにおいては、「言語」だけでなく「準言語(声の大小・高低・速度、間の取り方、沈黙)」、「非言語(表情・アイコンタクト、行動、香り、ジェスチャー等)」「コミュニケーションを意識することが大切。認知症の人は何もわからない人ではない。物忘れはあるが、情緒、感情面ではとても豊かな人である。そのことを再認識し、援助者としてのコミュニケーションのあり方を見直してみる大切である。

環境を考える
松田昇氏(カーサしんゆり管理者)

要点…認知症の方は環境からの刺激に敏



施設と地域の相互関係の強化を促す松田氏

感で影響を受けやすい。「環境によるストレスを受けていないか」などを考えて環境を調整する必要がある。これからの認知症介護の目標は「地域に支えられ、地域を支えるケア」である。認知症の高齢者が、その人らしく馴染みのある地域で生活の継続が出来ることを求められている。施設は入所者にとって安心で確実な生活空間であるが、閉鎖的になりやすい側面も持っている。施設が地域資源について情報を把握し、地域との相互関係を日常的に築くことにより、認知症の方の生活やサービスの質の向上が図れるようになる。

4日目(1月26日)

アセスメントとケアプラン
原啓子氏(株式会社ウッドベル介護支援専門員)
長本節子氏(グループホーム横浜はつらつ所長)



長本氏

要点…認知症の人の生活全般を支援するためのケアプランを作成するには、ICF(4面用語解説参照)モデルに沿って考えることが大切である。障害があるから何もできないということではない。ICFの視点を持って何が出来るのかを考え、残存能力を活かすことが大事である。そのためには、その人を良く知るためのアセスメントが重要となってくる。

5日目(1月27日)

家族の理解と高齢者との関係
秋津克巳氏(しょうじゅの里鶴見施設長)

要点…家族が安心・安定した生活ができることが、入居者の安心と安定した生活へと繋がる。介護家族がたどる4つの心理的ステップ(①とまどい・否定②混乱・怒り・拒絶③割り切りまたはあきらめ④受容)を踏まえた上で、家族を理解するための視点を養うことが大切である。入居者と家族の関係性を理解することは家族の心理的な安定や、ケア提供者への信頼に繋がる。

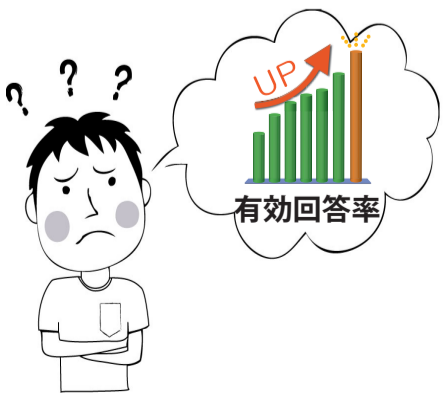
ウの目タカが目 こちら傍聴席

◎最低ライン

○:「できれば50%はほしいね」。介護給付費分科会・介護事業経営調査委員会の閉会后、ある委員が記者の質問にとっさに答えた。介護事業経営調査(概況調査、3年ごと)の実施が5月に決まった。従来と比べ2カ月早い。課題の一つが有効回答率のアップ。上昇傾向にあるとは言え、前回41.7%、前々回41.4%。「この数字で経営状況を正確に把握していると言いつけるのか」との批判や疑念の声が絶えない。

○:なぜ、有効回答率が期待ほど上がらないのか。現場の声を聞いて介護給付費分科会や同委員会は厚労省に対して「質問が細かく多すぎる」「調査期間が単月(従来は7月)では経営実態を正確に把握できない」「借入金返済の状況やキャッシュフローの視点も必要だ」と見直しを求めた。その結果、「5月実施」「改定後2年分の収支報告」「長期借入金返済支出の記載」などの対策が盛り込まれた。

○:だが、介護現場の反応は概して鈍い。在宅サービス業者は「ヘルパー探しに毎日てんでこ舞い」「介護報酬が下がり、経理や会計の専門家に報酬を払う余裕がない」と言う。今回のデータは介護報酬改定の基礎資料だけではなく、消費税率再引き上げ(29年4月予定)の対応にも使われる。数字の持つ意味は大きいのだが…。(植)



介護保険委員会

28年度介護経営実態調査に向けて

推進協は1月13日、東京都港区のAP品川で介護保険委員会ワーキンググループ会議を開催し、平成28年度介護経営実態調査（27年度決算）に向けて、調査方法、調査項目等について話しあった。

出席者は八木秀富氏（ローズガーデン 条南苑・理事長）、広嶋稔之氏（みんなと暮らす町・施設長）、八木郁夫氏（しよじゅの里三保・副施設長）、小野裕司氏（仙寿なごみ野・事務長）、佐藤理絵（事務局）の5人。

27年度（26年度決算）経営実態調査は回収率37・3%（25年度は49%、23年度は54%）と低かったが、「電子メールで依頼したことにより一因があるのではないか」との意見が出た。

28年度（27年度決算）の調査を行うにあたり前年対比が必須のため、郵送で26年度決算書の提出を依頼することが決まった。

回収率をあげるために、調査項目についても、厚労省や各都道府県に提出する書類等と同じ記述にするなど事務の簡略化に重点を置いた。

27年度決算については、5月に依頼文書を郵送、6月回収、7月中旬迄に集計、8月中旬に報告会開催を目指す。今回、経営実態調査のリーダーを務める八木委員は「厚労省の介護事業経営概況調査（5月実施）に先立って会員施設全般の経営特性を把握し、その情報を会員施設様に提供するとともに厚生労働省等との協議資料としたい」と話した。



ワーキンググループ会議

【26年度決算書の提出にご協力ください】

1月末に推進協事務局より調査対象の施設宛に調査書を郵送しております。2月25日に会議を開催し、調査書の集計を開始する予定です。ご協力よろしくお願いたします。※調査書は会員専用ページにもアップしています。

支部便り

岐阜支部

地域ネットワーク会開催

2月4日、岐阜支部（上田範子支部長）は岐阜ランドホテルで田伏清氏（全国支部長会代表）を招いて、今後の事業計画を検討および会員相互の情報交換を目的とした地域ネットワーク会を開催した。来年の第11回全国研修大会の開催地に名乗りを上げることを決めた。会場は岐阜市、3月の理事会にて承認を得る予定。

協議会理事で前岐阜支部長の安江紀子氏が、ユニット型個室の普及や職員の資質向上に向けた実践を岐阜から発信する意義を語り、開催に協力を求めた。



協議会理事で前岐阜支部長の安江紀子氏が、ユニット型個室の普及や職員の資質向上に向けた実践を岐阜から発信する意義を語り、開催に協力を求めた。

静岡支部

研修会のご案内

『認知症高齢者への具体的な環境づくりの手法（PEAP）を学ぶー身につける!!』

静岡支部（花木君子支部長）では、定例の研修会として、静岡県個室ユニット型施設連絡会との共催で『高齢者の生活とその環境の改善』の研修を左記の日程で開催いたします。

ぜひ、この機会にご参加ください。

【日時】 28年2月25日（木）

13時30分～16時30分（受付13時～）

【場所】 静岡市東部勤労者福祉センター「清水テルサ」6階 研修室（大）

【研修内容】 「認知症高齢者への環境支援のための指針（PEAP）」を学び、ユニッ



ト型施設を活かした生活環境作りに結びつける。

【講師】 日本社会事業大学大学院特任教授・工学博士 児玉桂子氏

【対象】 高齢者の環境づくりに興味関心のある人

【定員】 90名（申込先着順）

【参加費】 無料

【申込方法】 FAX又はメールで受講希望者全員の氏名・所属団体名・職業（役職名）・代表連絡先（メールアドレス又はFAX番号）を記入し、お申し込みください。

【問合先】 特別養老老人ホームレジデンス花 担当：林 肇裕

TEL：054（343）2121
FAX：054（396）3911
メール：hanazono@yrc.ne.jp

ユニットケア施設管理者研修

推進協は1月20日～22日、福岡市のリファレンス 駅東ビルで、「第3回ユニットケア施設管理者研修」を開催した。参加者は21名。井手明利氏（望洋の郷・施設長）、足立啓氏（和歌山大学システム工学部教授）、末次朋子氏（洗心園副施設長、認知症介護指導者）が講義を担当した。

末次氏は「認知症の理解と権利擁護」で、老人福祉法第17条の「入所者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにすることを旨とする」を目標にする必要があることを目指すものでなければならない」と、「利用者には専門職から専門的な介護サービスを受ける権利がある」さらには「利用者があるべき生活や思いを、チームケアによる専門性を発揮して支えることが使命」と言い換えられると述べ、職員が根拠に基づいた適切なケアができるよう法律や認知症の発症原因や症状、対応の仕方をお

全国個室ユニット型施設推進協議会
静岡県個室ユニット型施設連絡会 共催

ユニットケア研修会

『高齢者の生活とその環境の改善』

講師 日本社会事業大学 児玉桂子氏

日時 平成28年2月25日(木)
13:30~16:30 (受付13:00~)

会場 静岡市東部勤労者福祉センター
「清水テルサ」6階 研修室(大)

定員 90名(申込先着順)

対象 高齢者の環境づくりに興味関心のある人

参加費 無料

申込方法 FAX又はメールにて受講希望者全員の氏名・所属団体名・職業(役職名)・代表連絡先(メールアドレス又はFAX番号)を記入し、下記宛先に申し込みください。
FAX: 054-396-3911
E: hanazono@yrc.ne.jp

お問い合わせ 静岡県個室ユニット型施設連絡会事務局 TEL:054-343-2121
担当: 林 肇裕 (特別養老老人ホーム レジデンス花)



末次氏 足立氏 井手氏

かりやすく教育することの大切さを語った。

足立氏は「高齢者の生活とその環境」で認知症高齢者を取り巻く環境と支援方法について講義し、後半のグループワークではキャプションカードを用いた演習を行ない、利用者視点で課題を評価し解決することの大切さを伝えた。

井手氏は運営計画書の作成を指導するにあたり、「施設長以上の施設にはなりません。皆さんが思う良い施設とするために、いつまでに何をどうするか具体的に計画を立ててください。皆さんが頭を使って、悩んでため息をついた分、施設は良くなります。ぜひ、入居者様のためにがんばってください」とエールを送った。

3日目の最後に受講者が一人ずつ「運営計画」と「どのような施設を作りたいか」について発表し、講義の感想や今後の抱負などを述べた。

ある受講者は「どの仕事にも価値と意味があり、ケアは根拠に基づいてするのだと気づかされた」と感想を述べた。

また、「職員に働きたいと思ってもらえる施設。そういう施設ならきつと入居者様やご家族にも満足してもらえは」と管理者としての思いを語った。

第5期ユニットリーダー研修

推進協は2月1～3日、東京の大田区産業プラザPiOで、27年度最後の第5期ユニットリーダー研修を開催した。参加者は45名。池原香氏（のぞみの杜・施設長）、秋津克巳氏（しよじゅの里 鶴見・施設長）、鈴木みな子氏（日本社会事業大学社会事業研究所共同研究員）、吉田齊氏（しらとり・介護課長）、伊藤久美氏（ニューバード・フロア長）が講義を担当した。

秋津氏は「認知症の理解と権利擁護」、鈴木氏は「高齢者の生活とその環境」、

吉田氏は「ユニットケア導入の過程」と「ユニットケアの具体的方法（1日の暮らし）」、伊藤氏は「情報の活用と職員のサポート及び指導等」と「運営計画演習」について講義した。

池原氏は「介護過程の展開」で自施設でのエピソード：《新人職員Bさんは連日険しい表情で一心不乱に施設内外を歩き回るAさんを日々観察する中、ブツブツと言葉にならない名前のような単語を発していることに気がついた。ご家族に尋ねるも解らず、苦しい日々は続いた。そのような中、『もしかしたら戦時中に大陸で亡くした子供のことで…』と、他県から訪ねた妹さんにヒントを得た。そこで、Aさんに何かできることはないかと考え、お人形を置いてみた。当初興味を示さなかったAさんだったが、仕舞いにはわが子のように傍に置き、笑顔のある穏やかな暮らしを取り戻したという。』を語った。そして、「アセスメントや気付きがいかにか重要か、その方に心をもち、入居者様の行動にはどんな理由や原因があるのかと考え、何をしたいかあげられるだろうかという思いから行動する、これは一番近くにいる私たち介護職でなければできないことなのではないでしょうか。介護の3H(Heart=態度や心・Head=知識)をしつかり使って、PDCAサイクルをスパイラルアップしながら、介護過程を展開していつてほしい」と語った。

受講者の一人は、「これまでユニット型施設に入居者と介護職員が居ればユニットケアだと思っていた。そうではない。まずは入居者を中心とする考えや個別ケアの考えがあつて、そういうケアをするのに適した施設がユニット型施設なんだということが、この研修でわかった」と感想を述べた。



伊藤氏 吉田氏 鈴木氏 秋津氏 池原氏

連載 第2回 認知症 あれこれ

認知症の種類

現在、認知症にはどんな種類があるのでしょうか？認知症は原因によっていくつかの種類に分けることができます。まず、代表的な認知症といえばアルツハイマー型認知症があります。これは脳にアミロイドペーターというタンパク質がたまり正常な神経細胞が壊れ、脳萎縮が起ることが原因と言われており、認知症全体の50%を占めています。

次いで、脳血管性認知症とレビー小体型認知症で、これらを三大認知症と呼んでいます。しかし、現在はこの三大認知症に前頭側頭型認知症を加え、四大認知症とも呼ばれています。

アルツハイマー型認知症では主に体験自体を忘れてしまったり、現在と過去の区別がつかなくなったり、やがて言葉の意味も失われ、話が通じなくなってしまうといった症状が見られます。

脳血管性認知症は脳梗塞や脳出血など、脳の血管障害によっておこる認知症です。主な原因は生活習慣が引き起こすとされており、高血圧、高脂血症、糖尿病などにならないよう注意することが大切です。進行は階段状に進行するとも言われ、意欲の低下、不眠や不穏がめだちます。

レビー小体型認知症はレビー小体（異常なたんぱく質のかたまり）が大脳皮質に出現することで起こる認知症です。初期症状には「幻視」が見受けられます。また、進行すると、歩きにくくなったり、転びやすくなるなど、パーキンソン症状が現れます。

前頭側頭型認知症は、前頭葉と側頭葉を中心に萎縮がおこる認知症で、代表的なもののがピック病です。人格や性格が極端に変わったり、毎日決まった時間に同じ行動を繰り返したりなどの症状がみられます。

四大認知症の他に、正常圧水頭症、甲状腺機能低下症、慢性硬膜下血腫などによる認知症などがあります。

（認知症介護指導者 秋津克巳氏）





～地域のニーズにこたえた一歩先を目指した施設作り～

夜間は2ユニットを1人のケアワーカーが介護するため、両ユニットの介護職員が共同利用する部屋を造りました。結果として、隣り合う



新築移転に関し、心を配った事はまず、1フロアに偶数ユニットの配置で、隣り合うユニット間の壁をなくすことでした。完全に独立した閉鎖的なユニットでは利用者に対するリスクと職員のストレスが大きいと考えたからです。

施設のある佐賀県多久市は歴史と文化の町、「孔子の里」として知られ、天山(佐賀県立自然公園)を北に望む豊かな自然のなかにあり、自然・歴史・文化を満喫する環境に恵まれています。



天寿荘外観

【施設の紹介】 社会福祉法人天寿会特別養護老人ホーム天寿荘(諸隈正剛理事長・諸隈博子施設長)は、昭和53年4月に開設しました。以後、佐賀で初となるショートステイやデイサービス事業を開始。平成27年9月には、個室ユニット型施設として国道沿いの角地に移転オープンしました。

●一歩進んだ排泄支援 最後まで自分でトイレに行きたいと思うのは誰しもが願う事だと思えます。入居者の尊厳を守った排泄支援をす

リフトの導入により職員の腰痛解消だけでなく、入居者の方の「落とされるのではないか」という不安や「重くて悪いな」という遠慮も解消されました。リフト導入前には家族会でも家族にリフトを体験してもらい、その安全性を確かめてもらいました。入浴時もリフトを使用しています。

リフトを積極的に導入することで職員の腰痛の問題を解消しました。リフトは1ユニットに1台ずつ設置しており、施設全体でリフト10台、ネット55枚を所有しています。ネットを敷き一人でも介助できるようにしています。ネットを選ぶ時には痛くなく安全であることに留意しました。



リフトの導入により職員の腰痛問題が解消

●次に、厨房はオール電化にし、セントラル(集中料理)方式、調理はチルド方式(0〜3℃のチルド状態で盛り付けを行い、盛り付けた状態で再加熱を行う)を取り入れました。これによりセントラル厨房の職員は休日を取りやすくなります。

入居者の状態を職員が自然と知る様になり、リスクとストレス軽減ができています。次に、厨房はオール電化にし、セントラル(集中料理)方式、調理はチルド方式(0〜3℃のチルド状態で盛り付けを行い、盛り付けた状態で再加熱を行う)を取り入れました。これによりセントラル厨房の職員は休日を取りやすくなります。

【施設長から】 地域のニーズにお応えして活動してまいりました。入居者の方には、その人らしく安心して心地よく過ごしていただけることを大事にしています。また、地域の方には年齢を問わず施設へ来て欲しいと思っています。子供たちの夏休みの宿題を高齢者がお手伝いできるような施設になればと思っています。

【施設長から】 地域のニーズにお応えして活動してまいりました。入居者の方には、その人らしく安心して心地よく過ごしていただけることを大事にしています。また、地域の方には年齢を問わず施設へ来て欲しいと思っています。子供たちの夏休みの宿題を高齢者がお手伝いできるような施設になればと思っています。



諸隈博子施設長

●国連への送金額2000万円 季節によって催事をしていきますが、5月の「みどり一本バザー」は、地域の人々のご協力ご支援を受けて、毎回、収益金を国際連合難民高等弁務官事務所に送金しています。昭和57年からじまっこの運動による送金総額は1972万(2015年5月現在)を超え、地球規模で窮地にある人々の救済に使われています。



国連からの感謝状

そのため、トイレに行けない利用者のベッド横にはウォッシュレット機能のついたポータブルトイレを設置しています。それにより入居者の自立支援と職員の排泄介助にかかる時間の削減につながっています。天寿荘では全室にトイレ用配管をセットしてあるのでトイレを移動するだけで、どの居室でも対応可能になっています。



ベッド横に設置されたポータブルトイレ

〒846-0002 佐賀県多久市北多久町大字小侍 640 番地の1 TEL.0952-74-3100 FAX: 0952-74-3137

【特養】10ユニット 97床(内ショート20床)

入居者様と一緒に朝の挨拶運動
社会福祉法人 敬愛園
介護老人福祉施設 アットホーム 諸岡 (福岡県)
施設長: 坂田 龍児

アットホーム諸岡では、入居者様のサービスの向上はもちろん、地域との連携にも力を入れ、取り組んでおります。取り組み内容のひとつとして、今回は朝の挨拶運動についてご紹介いたします。

小学校の通学路に面した立地条件を活かし、気候の良い時期に入居者様と共に朝の挨拶運動を行っております。何よりも小学生を見送る入居者様の表情が優しく、「親心」で見送られる様子が印象的です。また、地域の自治会の方々も通学の見守りをされており、地域全体で子供達を見守っております。挨拶運動を通じ、笑顔で手を振り合い、「今度の夏祭りはいつ?」などと気軽に尋ねられる関係性につながっています。その甲斐もあってか、夏祭りには大勢の方が来客され賑わっています。今後とも入居者様と共に、地域を支え、支えられる施設を目指し取り組んでいきたいと思っております。

(施設長: 坂田 龍児)

朝の挨拶運動!



自治会長と共に顔馴染みの関係性へ子供達を見守ります

挨拶運動を通じて夏祭りも地域に浸透!



地域の方と一緒に盆踊り

地域の方も大勢参加

交流会「翔裕園の日」& 福祉用具全面導入
社会福祉法人 長寿村
特別養護老人ホーム竹の塚翔裕園 (東京都)
施設長: 栞山 宏二

竹の塚翔裕園では、毎年10月1日を「翔裕園の日」と称して、隣接する障害者施設のご利用者や地域の子供たちなど多数の方と入居者との交流会を開催しています。

また、職員同士が協力し、各イベントに力を入れています! 夏の暑気払いでは、施設の屋上ビアガーデンに早変わりし、バーベキューに舌鼓を打ちました。冬は銅パーティー忘年会。イベントを通して、意外な職員の料理上手が判明することも... (笑)。

また、介護職員の身体は本人にとってだけでなく、施設にとっても大切な資本! そこで、無理をしない介護を目指し、福祉用具を全面導入。また、休憩時には職員専用マッサージ機でゆったりとリフレッシュしてもらっています!

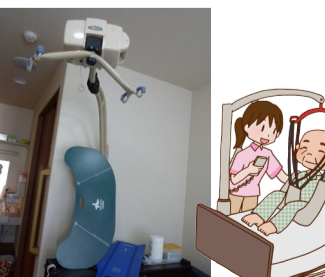
(副施設長代理: 永尾 光治)



夜空を眺めながらのビアガーデンは最高です。



地域の子どもたちとふれあい。年の差、96!



福祉用具活用で抱えない介護を目指します!



休憩時には体をリフレッシュ!

年初めはやっぱり! 今年の漢字とうれし野神宮詣
社会福祉法人 登豊会
特別養護老人ホーム岐南仙寿うれし野 (岐阜県)
施設長: 近石千恵美

岐南仙寿うれし野では、年末ではなく、年初めに今年の漢字を決定します。入居者、ショートの利用者、家族、職員から今年一年の思いを込めた漢字一文字を理由と共に記入して投票をいただきます。今年4度目の開催となる書初めで選ばれた漢字は【進】。開設10周年を迎える今年、新たな気持ちで進んでいきたいという願いを込め、施設長による書初めが保育園児、入居者、職員注目の中、披露されました。

また、以前よりあった「うれし野神宮」をリニューアル! 宮大工である職員のお父様に依頼した立派なお宮さん。どんな願いも叶えていただけそうで、「絵馬」もたくさん奉納されました。傍らには盆梅が飾られ、年初めのうれし野は、ホールに咲き誇る満開の梅と華やかな香りに包まれました。

(支援主任: 石原 規章)



参加者全員が筆の運びに注目!



「今年の漢字は【進】です」



梅の香が春の近づきを感じさせてくれます



「いつまでも綺麗でいられますように...」

介護ニュース・ダイジェスト

1月1日～1月31日

介護に関する政府機関や民間団体の動きを掲載しています。詳細は厚労省や各団体のHPなどをご覧ください。

「1億総活躍元年」 塩崎厚労相（1月4日）

塩崎厚労相は年頭記者会見で「1億総活躍元年の幕上げであり、3本の矢のいずれも厚労省が責任を持つ施策で対処しなければならぬ」と述べた。

「処遇改善調査協力を再要請」（1月7日）

厚労省は都道府県などを通じて介護職員処遇改善の実態を把握するための調査への協力を再要請した。回収率が低いため。

「介護シゴト懇談会が初会合」（1月12日）

介護人材不足の改善や介護現場のテクノロジー化などについて有識者が話し合う「介護のシゴト魅力向上懇談会」の第1回会合が開かれた。

「介護人材不足25万人」（1月12日）

厚労省は2020年代初頭の介護職員不足数を25万人（5万人上乗せ）と推計した。「介護離職ゼロ」に向けて12万人分以上の介護サービスを上積みして整備する政府目標を達成するには、新たに約5万人の介護人材が必要となるとしている。

「倒産76件 過去最多」（1月13日）

東京リサーチによると、介護事業者の27年倒産件数は76件（前年比4件増）で介護保険制度創設以降、最多。比較的規模が小さく経験の浅い事業者が多かった。また介護報酬が大幅に引き下げられた「デイサービスの倒産が目立った」。

「介護休業の分割取得可へ」（1月13日）

塩崎厚労相は「介護離職ゼロ」の一環として労働政策審議会に雇用保険法等一部改正案の要綱を諮問した。要点は▽介護休業の分割取得を新設し、介護対象家族1人について3回まで、計93回までの取得を可能とする▽労働者が請求した場合、事業主は所定労働時間を超えて労働させてはなら

ない▽1日の所定労働時間が4時間超の労働者の場合、半日単位の取得を可能とする▽介護休業給付金を賃金の40%から67%に引き上げるなど。

「聖域ではない」首相答弁（1月13日）

安倍首相は軽減税率の財源に関する国会質問に対して「社会保障費の充実分を軽減税率の財源に回すことは考えていないが、社会保障費を聖域化せず、効率化を図る」と答弁した。

「療養型で2類型創設へ」（1月15日）

第7回療養病床の在り方等に関する検討会は、介護療養病床と医療療養病床（25対1）の廃止に伴い、新たな転換先として「医療内包型」（一体型、2タイプ）と「医療外付け型」（併設型）を創設する案を了承した。今後、医療部会や介護保険部会などで審議し、厚労省は29年の通常国会に関連法改正案を提出する（107号参照）。

「介護段位制度見直し素案」（1月18日）

第8回介護プロフェッショナルキャリア段位検討会は、現場職員の負担軽減のため評価方法を簡便にするなどを柱とする報告書案の素案を大筋で了承した。チェック項目を再興し、記録を省略して簡素化を目指す。

「地域包括センター体制強化」（1月19日）

厚労省は地域包括支援センターの設置運営指導要綱を改正し、市町村に同センターの体制整備を強化するよう要請した。

「ケアマネ合格率 15・6%」（1月19日）

厚労省によると、27年度介護支援専門員試験の合格者は2万925人、合格率は15・6%で過去3番目に低い水準。

「補正予算が成立」（1月20日）

「1億総活躍社会」の実現などを旨とする平成27年度補正予算案（約3・3兆円）が参議院で可決・成立した（107号参照）。

「在宅で替否両論」（1月21日）

外国人介護人材の受け入れの在り方に関する検討会は、EPA（経済連携協定）に基づくインドネシアなど3カ国の外国人介護福祉士候補者について、現行では特養や老健、介護療養病床、同施設と一体運営されているデイサービスなどに限定されている受け入れを拡大すべきかどうか協議した。総論的には拡大する意見が多かったが、在宅サービスでは賛否が分かれた。また「原則、1施設2名以上」とする規制の緩和（1名でも可）を求める意見が出た。

「概況調査 5月実施」（1月25日）

介護給付費分科会の第16回介護事業経営調査委員会は、28年度介護事業経営概況調査（概況調査）の実施計画などを承し、分科会に報告することを決めた。概況調査のポイント▽次期の介護保険制度改正及び介護報酬改定の基礎資料と消費増税対応のデータを得る▽28年5月実施（26年度及び27年度決算額の2年分、回答期限5月31日消印有効）、公表は12月の予定▽「国庫補助金等特別積立金取崩額」は収益から費用（控除額）へ移行▽新たに「設備資金借入金元金償還支出」と「長期運営資金借入金元金償還支出」の記入を求めるなど。また消費税負担の現状について事前に照会し、「意見あり」と回答した団体からヒアリングを実施（3月を予定）する。

「療養病床の在り方」整理案（1月28日）

介護療養型病床と医療療養病床（25対1）の廃止・転換の方向性を論議してきた「療養病床の在り方等に関する検討会」は整理案を発表した。設置期限の29年度末までに新たな選択肢として医療提供施設の「医療内包型」（要介護のリスクによって2タイプ）と居住スペースに医療機関を併設する「医療外付型」の2つの型（3タイプ）を示した。今後、医療部会や介護保険部会などで審議し、厚労省は29年の通常国会に関連法改正案を提出する方針（107号参照）。

「処遇改善を1億プランの柱に」（1月29日）

1億総活躍国民会議で安倍首相は5月をめどにまとめる「ニッポン一億総活躍プラン」の骨格の一つに保育士と介護職の処遇改善を盛り込む意向を表明した。

ズバリ回答！ 人事・労務のお悩み

◎上司の指示に従わない中堅職員



【今月の相談内容】

中堅職員が上司の指示に従わず、我流で業務を遂行することがあるため、現場が混乱しています。どのように指導を行ってあげればよいでしょうか？

【回答】

作業方法を含め、仕事内容の決定権は使用者にあります。指示に従わないようであれば、程度によっては懲戒処分を行うことも検討しなければなりません。一方で、抽象的な指示によって混乱していたということも考えられることから、なぜそのような方法で業務を遂行するのかを確認すると同時に、具体的な目的やゴール水準等を伝えて指示内容の認識を合わせておくことが必要です。

使用者の方針に従わずに我流で業務を遂行しているのであれば、当然注意をして改善を促さなければなりません。その場合、我流を続け、かつ度重なる指導によっても改善がされないのであれば、けん責等の懲戒処分を行うことも考えていくべきでしょう。

その際、自分のやり方を押し通そうと反論してくるケースも想定されます。その場合、面談等によって本人の言い分を聞くことになり、実は利用者様目線の発想で仕事に取り組んでいたということも考えられなくもありません。そのため、指導を行う前のコミュニケーションは極めて重要であり、最初から指導に従わない職員を排斥する態度は取るべきではないでしょう。また、上司等から指示が抽象的であったことで、よく分からない状態のまま、自分で模索して取り組んでいたということもあるかもしれません。

こうした状況を招いた背景を紐解いてみると、そもそも、経営者と職員との間に認識のズレがあることがあります。なぜ、そうした業務が必要なのか、そしてその業務を遂行する先にはどういったゴールが設定されているのかといったことが、十分に理解できていないことが少なくありません。

今回は、会員様専用ページに様式「面談書」をアップしました。面談後は、面談により改善指示した事項等を記録により、双方が保管しておく必要があります。懲戒処分の対象となる場合においてもこの記録は大切にしてください。

（監事・社会保険労務士 栗田淳二）

一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会
第10回 全国研修大会in新潟2016

2016 NIGIGATA

「まち」、「ひと」、「ケア」で 結ぶ地域づくり
～これまでの10年、これからのトキめく地域を創造する～

平成28年 11月24日（木）～11月25日（金）

会場：ANAクラウンプラザホテル新潟
会長：田中 政春（社会福祉法人長岡三古老人福祉会）
実行委員長：佐藤 真弥（社会福祉法人河渡の郷福祉会）

今後の予定
 □ 3月8日（火） 13時半～16時半 推進事業合同会議（市川区きゅりあん）
 □ 3月15日（火） 14時～16時 27年度第3回理事会（大田区産業プラザ）
 □ 5月17日（火） 新規実地研修施設募集説明会（大田区産業プラザ）
 □ 5月18日（水）～19日（木） 指導者勉強会（大田区産業プラザ）
 □ 6月2日（木） 第11回社員総会（大田区産業プラザ）
 □ 28年度第1回理事会（大田区産業プラザ）
 □ 6月3日（金） 実地研修施設勉強会（大田区産業プラザ）

【用語解説】ICFって？

人間の生活機能と障害の分類法である国際生活機能分類（ICF）は、国際障害分類（ICIDH、1980年採択）という考え方に對し、2001年に世界保健機関（WHO）において採択されたものです。これにより、ICIDHの「マインスを重視する」からICFの「プラスを重視する」という視点の転換が図られました。

ICIDHでは、例えば足の麻痺という障害があった場合、歩行困難というマイナス面を重視し、転倒防止に努めるといった考え方がになります。

ICFでは「障害は「社会環境によって作り出されたもの」であって、社会環境を変えることで、障害にはならない」とする視点から、足の麻痺はあるが、手は動かすことができる、車いすで移動することができるといったプラス面を重視するといった考え方がになります。

本人を取り巻く人的・物的環境を整え、本人の主体性・主観性（＝気持ち）に配慮し、マイナスイメージもプラス面を見ながら「心身機能」だけでなく、「活動」「参加」に着眼するという視点に基づいた支援の考え方が言えます。

ICF（International Classification of Functioning, Disability and Health・国際生活機能分類）
ICIDH（International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps・国際障害分類）

事務局からのお知らせ
 推進協ホームページ（http://susinkyonet.net）より、ご覧いただけます。

【お問合せ先】045（921）0462
info@susinkyonet.net 事務局山崎まで。

【支所の活動お知らせください】
 ニュースに掲載いたしますので、支所の活動予定や活動実績等、事務局までお知らせください。5日までにお送りいただいた情報はその月に掲載いたします。

【施設での活動記事募集】
 施設での取り組みや行事等のエピソードがありましたら、事務局までお寄せください。